

小学生の夏休み調査

— 小学生の保護者を対象として —

調査概要

調査テーマ

小学生の夏休みの実態、夏休みに関する保護者の意識

調査時期

2009年9月

調査対象

全国の小学1年生～6年生の子どもをもつ母親 4,644名=774名×6(学年)

調査方法

インターネット調査

【調査対象について】

約87万人のモニター母集団のうち、子どもをもつ既婚者(25歳～59歳)11万名に対して予備調査を実施。このうち、小学1年生～6年生の子どもをもつ母親にアンケートの協力を依頼。各学年ごとに男の子、女の子をもつ母親それぞれ387名のサンプルが集まった時点で調査を終了した。

1. 夏休みの生活



ふだんよりも起床時刻が遅くなる！

図1-1 就寝・起床の平均時刻と睡眠の平均時間



今回調査
放課後の生活時間調査*

*「放課後の生活時間調査」は、小学5年生以上の子どもを対象に2008年11月(平日)に実施。

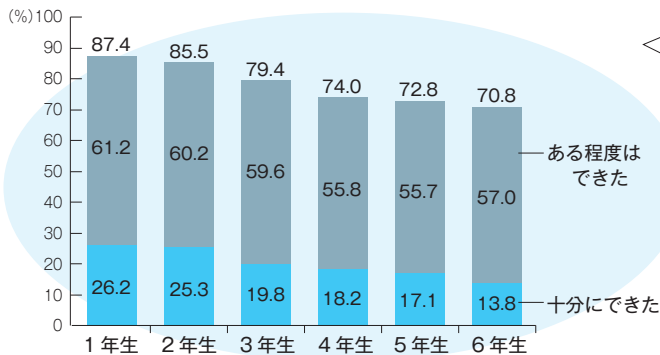
*就寝の平均時刻は、「21時より前」を「20時30分」、「24時よりあと」を「24時30分」、起床の平均時刻は、「6時より前」を「5時30分」、「10時よりあと」を「10時30分」のように置き換えて算出した。

生活習慣の乱れが心配される夏休みですが、子どもたちは何時ごろに寝て、何時ごろに起きているのでしょうか。平均時刻をみると、就寝時刻は21時ごろ、起床時刻は7時ごろが多いようです。5～6年生について学校があるふだんの日と比べると、起床時刻が40～50分くらい遅くなり、その分だけ睡眠時間が長くなっています。



7～8割が「規則正しい生活」を送れたと回答

図1-2 規則正しい生活を送ること(「できた」割合)



子どもが「規則正しい生活を送ること」ができたと考える母親は、いずれの学年でも7～8割台と高い結果になりました。しかし、学年が上がるとともにその割合は下がり、高学年になると3割くらいが十分にできていないと感じているようです。



母親の声

早寝早起きなど規則正しい生活をさせようと思っていたのに、夏休みだと気が緩んでしまい親子でのんびりしすぎてしまった。(小5女子)

子どもの生活ペースに影響されて、本来の自分の生活リズムが崩れてしまいとても疲れた。(小5女子)

生活リズムは自主性にまかせたかったが、こちらが声をかけないと際限なくだらしくなっていくため、どのあたりで声をかけるべきか悩んだ。(小3男子)

受験で忙しかったが、やりくりして、遊ぶ時間も確保できた。子ども自身もタイムマネジメントを会得するよいチャンスだと思った。(小6女子)

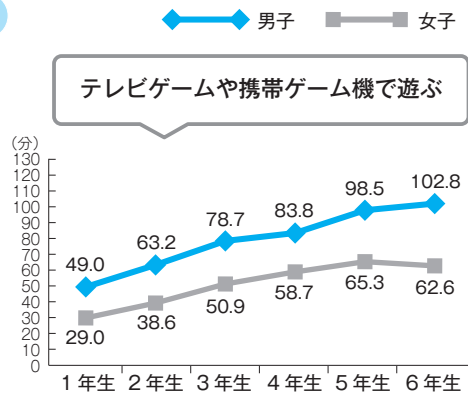
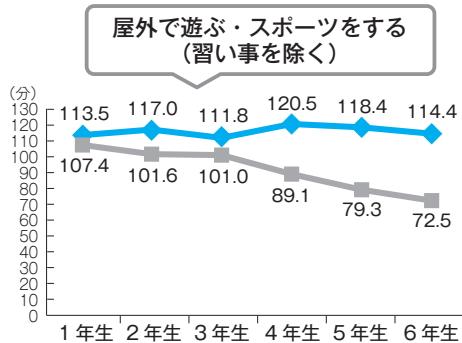
生活が不規則になる。私が仕事で家を空けると、テレビばかり見て困った。(小3女子)

生活のリズムが崩れてしまう。自分のペースで物事を行うのでだらだらしてしまう。(小4男子)



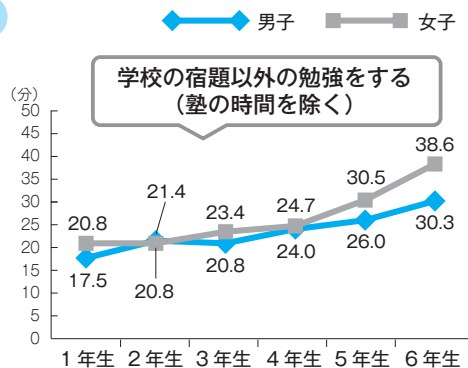
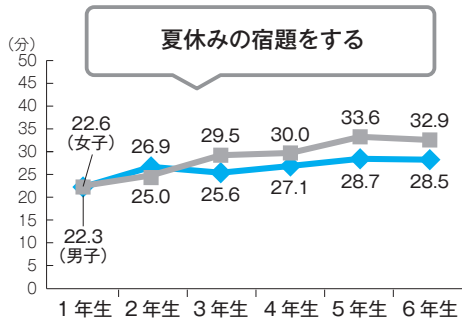
家庭での学習時間は1時間程度

図1-3 遊びの時間（1日あたりの平均時間）



夏休み中の生活のようすを調べてみると、学年の違いだけでなく、性差でも特徴がみられるものがありました。たとえば、「屋外で遊ぶ・スポーツをする」は、高学年の女子で時間が減少します。「テレビゲームや携帯ゲーム機で遊ぶ」時間は高学年の男子だと1時間半以上を費やしています。

図1-4 家庭学習の時間（1日あたりの平均時間）

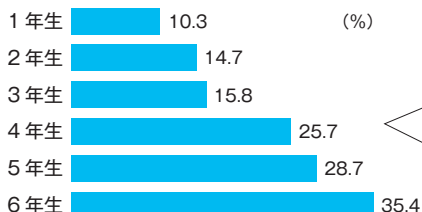


*「夏休みの宿題をする」は、調査票では「学校の宿題（夏休みの宿題）をする」と表記している。

家庭学習の時間は、学年による違いがそれほど大きくありません。「夏休みの宿題をする」時間は、30分前後というところです。また、「宿題以外の勉強をする」時間は、低学年で20分、高学年でも30分前後でした。両方を合わせて、家庭学習時間は1時間程度というのが一般的です。

*図1-3、4、6 (p.4)の平均時間は、「しなかった」を0分、「4時間」を240分、「4時間より多い」を300分のように置き換えて算出した。

図1-5 通塾率（夏期講習）



夏休み中の通塾率は、低学年で1割台、高学年で3割前後。ふだんと比べて増加するというわけではないようです。

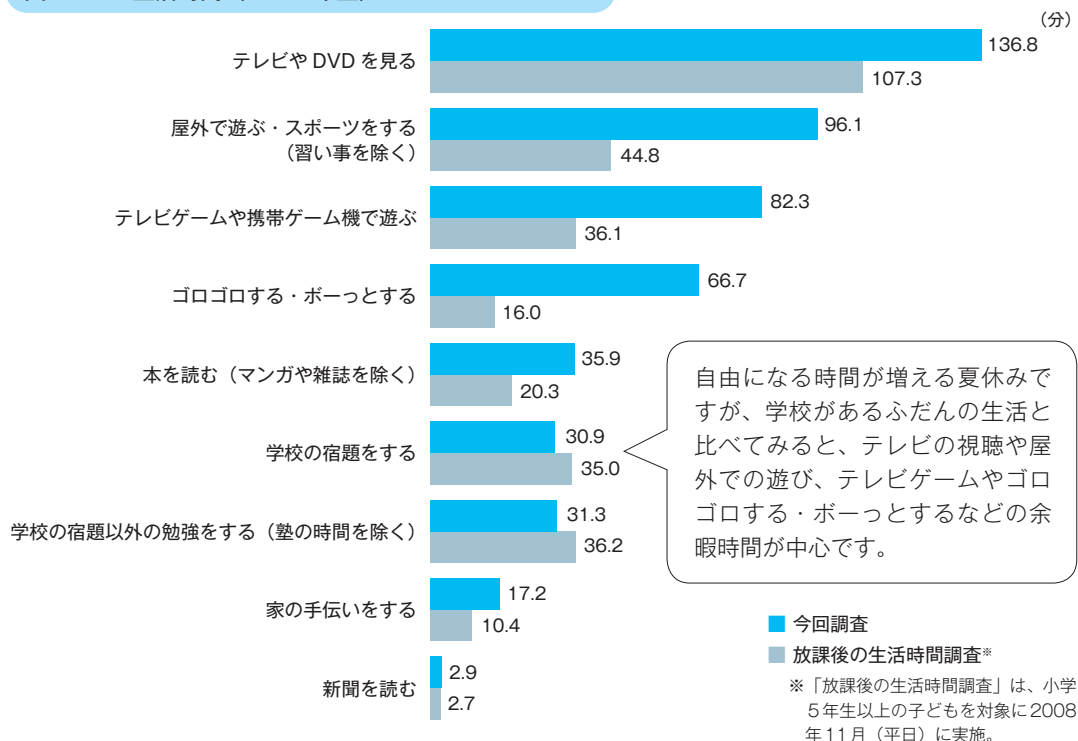


*数値は、「夏休みの間、お子様は、学習塾（夏期講習）に通いましたか。習い事（そろばん、習字、英語など）は除きます。プリント教材の教室は含めます。」という設問で、「通った」と回答した%。



遊びは増えても家庭学習の時間は増えない

図1-6 生活時間（5・6年生）



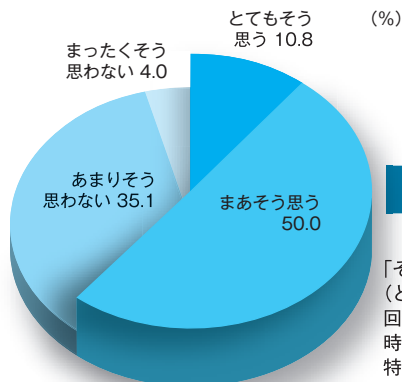
*今回調査では、「学校の宿題をする」は「学校の宿題(夏休みの宿題)をする」、「放課後の生活時間調査」では、「学校の宿題以外の勉強をする(塾の時間を除く)」は「学校の宿題以外の勉強をする」と表記している。
*今回調査で聞いている「室内で遊ぶ(テレビゲーム・携帯ゲーム機を除く)」は「放課後の生活時間調査」では聞いていないため除いている。



「充実した夏休みを送れた」 そんな子どもの生活を徹底解剖！

図1-7 夏休みの充実度

Q: 今年の夏休みは充実していたと思いますか。



規則正しい生活が、充実した夏休みを送るためのペースになるといえます。

- 起床は7時ごろ、就寝は10時ごろまでに
- 屋外で1時間以上遊んでいる
- テレビの視聴は1時間に抑える
- テレビゲームは30分くらいまで
- ゴロゴロするのは30分程度
- 家の手伝いを15分以上行う
- 1日30分以上本を読む
- 決まった時間に朝食を食べる

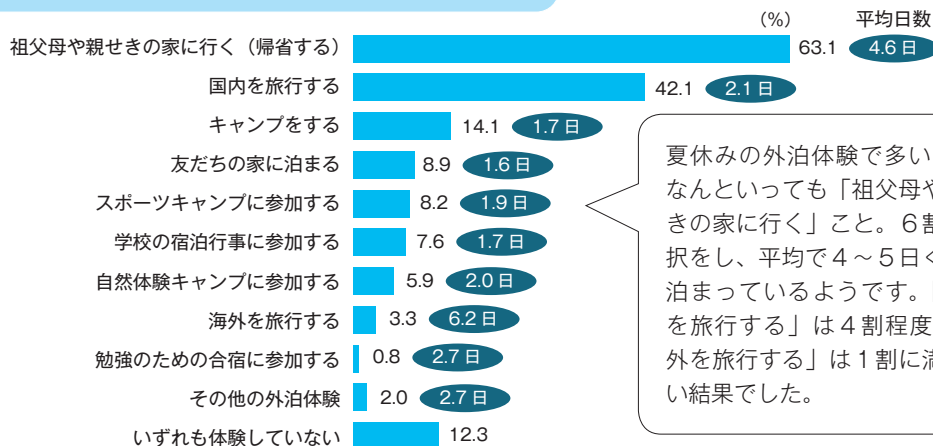
*「今年の夏休みは充実していた」と思うかどうかの回答別に、夏休みの生活に関する質問項目をクロスして、一定の傾向がみられたものをとりあげた。

2. 夏休みの体験



「祖父母や親せきの家に行く（帰省する）」がもっともポピュラーな外泊体験

図2-1 外泊体験



夏休みの外泊体験で多いのは、なんといっても「祖父母や親せきの家に行く」こと。6割が選択をし、平均で4～5日くらい泊まっているようです。「国内を旅行する」は4割程度、「海外を旅行する」は1割に満たない結果でした。

*複数回答。

*「お子様は、今年の夏休みに次のような外泊体験をしましたか。家族が行ったものも含めて、あてはまるものすべてをお答えください。」という設問で肯定した%。

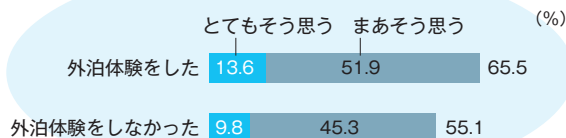
*平均日数は、該当の項目を体験したと回答したケースから算出した。



外泊で子どもも成長!?

図2-2 外泊による成長実感

夏休みを過ごして子どもが成長したと感じる



*「外泊体験をした」は図2-1に示した外泊体験を1つでもしたケースをさす。

「夏休みを過ごして子どもが成長したと感じるか」をたずねたところ、外泊体験をしたケースでは、「そう思う」が10ポイント程度高くなりました。日常とは異なる経験をすることや、家族と離れる体験をすることが、子どもの成長につながっているのかもしれない。

一方で、経済的な理由や仕事の都合などで旅行ができない、外泊によって生活リズムが乱れた、などの悩みの声も多く集まりました。



難しい現実も…



母親の声

夫の休みがまったくないので、親子で宿泊を伴う旅行に連れて行くことができない。(小2女子)

自宅では家庭学習の習慣がついているが、帰省すると生活リズムが崩れてしまった。(小3男子)

長男の部活に合わせていたら、次男を旅行やレジャーに連れて行くことができなかった。(小3男子)

親から離れてキャンプなど、夏休みにしか体験できないことをさせようと思っていたが、子どもの意欲がなく実現せず、親の気持ちが空回りした。(小2女子)

親の都合でキャンプや祖父母の家など、泊まり外出を多くさせてしまい、寂しくないか、勉強が遅れないか心配だった。(小1女子)

経済的にも苦しく、休むことができない。連れて行ってあげたいけど、事情が事情なのでどうしたものか…。(小4男子)

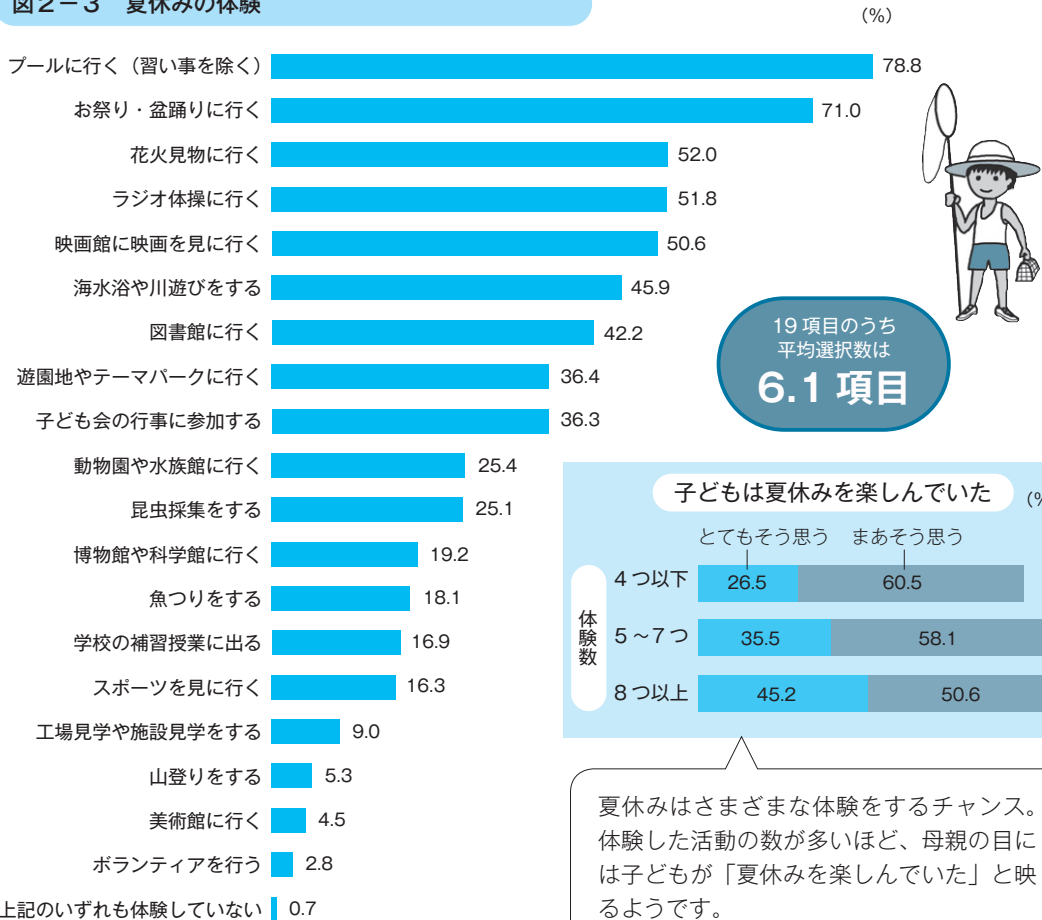
新型インフルエンザが流行っていたので、市役所が主催する子どもたちの旅行が中止になり、結局どこにも遊びに連れて行けなかった。(小6女子)

2. 夏休みの体験



体験した活動が多いほど夏休みは楽しい！

図2-3 夏休みの体験

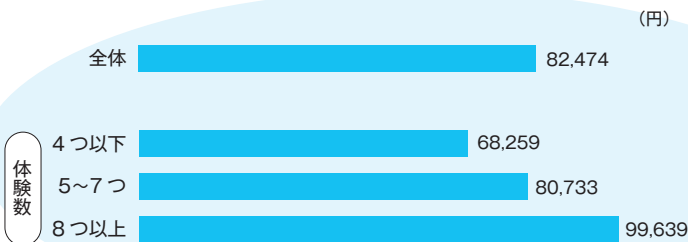


*複数回答。



親にとっては経済的負担も大きい

図2-4 夏休みにかかるレジャー・旅行の費用（世帯の平均総額）



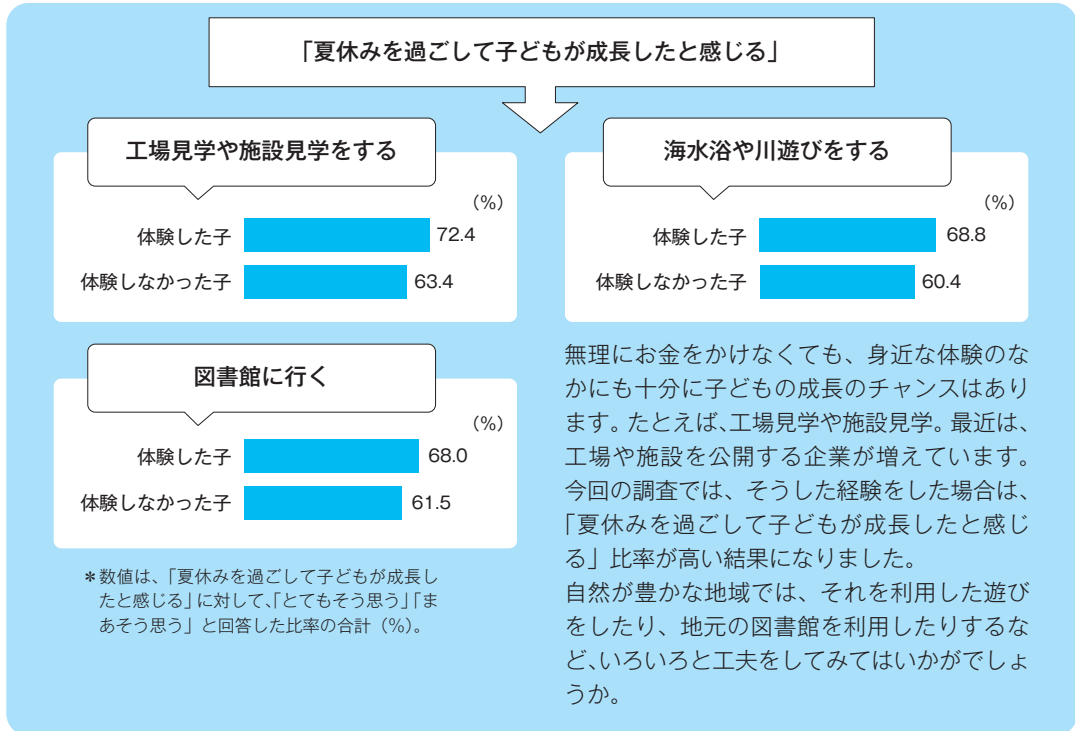
しかし、体験の数を増やそうと思うと、レジャーや旅行にかかる費用も増えてしまい、経済的な負担が大きくなります。

*「1万円未満」は5,000円、「1~2万円未満」は15,000円のように数値を置き換えて平均値を算出した。



身近な体験にも成長のチャンスはある

図2-5 体験による成長実感



多くの母親が子どもの成長を実感



母親の声

夏休みの生活のなかで

簡単な料理や洗濯物をたたむといったお手伝いをたくさんしてもらった。積極的に手伝いができるようになったと思う。(小2女子)

初めはなかなか泳げなかったが、夏休みに毎日練習をして泳げるようになった。本人もやればできると自信がもてた。(小3男子)

宿題や家庭での勉強を子ども自身にまかせ、計画をたてて勉強できるようにになった。自分で勉強ができるようになった。(小4女子)

勉強やスポーツなどを毎日続けることで、できることが増える。

外泊体験によって

帰省して親せきとの交流を深めた。いろいろな価値観に触れ、子どもの世界が広がり、思いやりがもてるようになった。(小1女子)

サマーキャンプでの異学年交流で人間関係を学んで帰ってきた。年上に敬意を払い、年下に優しく接するようになった。(小2男子)

テニスの合宿で、何でも自分でしなければならぬ状況になり、自分で考えて行動した経験が、自信となったようだ。(小4男子)

親に頼らないことや異文化に触れることが、成長をもたらす。

夏休みの体験によって

帰省して自然を満喫した。蛙が怖いと泣いたり海に入れなかったのに、自然に親しんで積極的に行動できるようになった。(小1男子)

初めてザリガニつりをして、飼育しました。世話をしたあと死んでしまって、生物の命についてわかったように思います。(小2女子)

山登りをして、しんどくても頑張って頂上を目指した。達成感を味わい、頑張りぬく力がより強くなったと思う。(小5女子)

日ごろはできない体験ができるのも、夏休みの魅力。

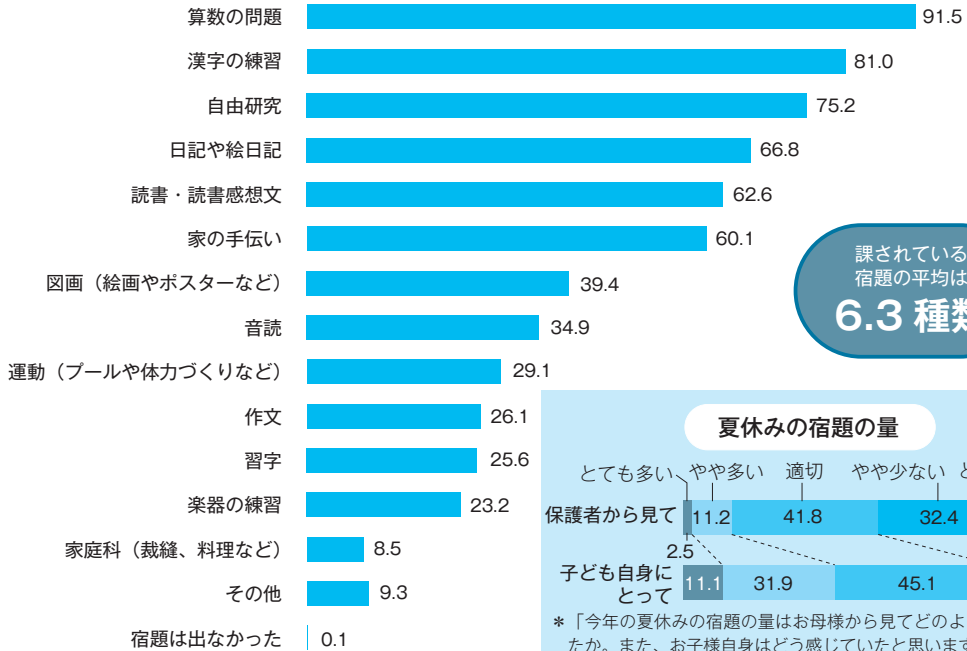
3. 夏休みの宿題



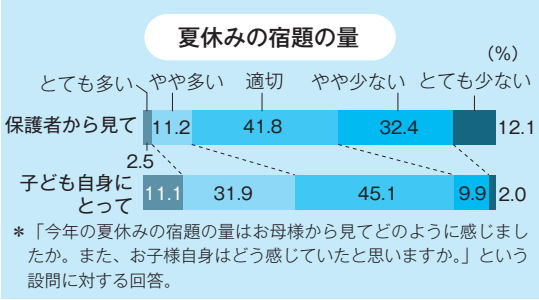
定番は「算数の問題」と「漢字の練習」

図3-1 夏休みの宿題

(%) * 複数回答



課されている宿題の平均は **6.3 種類**



学校から課されている宿題は、平均で6.3種類。もっとも多いのは「算数の問題」の91.5%。これに、「漢字の練習」が81.0%で続きます。宿題の分量については、「適切」と考える保護者が41.8%と最多ですが、「多い」13.7%、「少ない」44.5%と、適切ではないと感じている母親も多いことがわかります。



学年による違いは？

1年生は「漢字の練習」がありませんが、「音読」が課されることが多いようです。

表3-1 夏休みの宿題 (学年別)

(%)

	1位	2位	3位	4位	5位	平均
1年生	日記や絵日記 92.6	算数の問題 88.9	家の手伝い 58.1	自由研究 57.1	音読 52.3	5.4種類
2年生	算数の問題 94.8	漢字の練習 92.6	日記や絵日記 88.2	自由研究 64.9	家の手伝い 62.4	6.4種類
3年生	算数の問題 93.0	漢字の練習 91.7	自由研究 77.3	日記や絵日記 70.7	読書・読書感想文 65.8	6.8種類
4年生	算数の問題 90.2	漢字の練習 90.2	自由研究 83.7	読書・読書感想文 67.1	家の手伝い 59.9	6.5種類
5年生	算数の問題 92.6	漢字の練習 91.6	自由研究 85.0	読書・読書感想文 70.9	家の手伝い 63.0	6.6種類
6年生	算数の問題 89.3	漢字の練習 87.0	自由研究 83.2	読書・読書感想文 68.5	家の手伝い 53.0	6.2種類



自由研究のテーマは「図工系」が最多

表3-2 自由研究のテーマ

(%)

	全体	低学年		中学年		高学年	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子
図工系（模型づくり、美術作品づくりなど）	36.0	61.4	51.9	34.0	32.6	27.9	18.8
理科・観察系（動植物の観察・気象観測など）	24.4	20.9	21.0	30.4	24.6	25.5	22.3
理科・実験系（化学や物理の実験など）	12.8	5.5	5.5	14.1	13.6	18.4	15.6
社会系（町の歴史調査、仕事調べなど）	10.1	3.5	3.3	11.6	7.3	15.1	16.3
家庭科系（編み物や縫い物、食べ物調べなど）	9.7	2.1	10.9	2.9	14.7	5.6	20.6
国語系（小説、物語や絵本づくりなど）	3.0	2.3	3.9	2.9	3.2	3.3	2.5
その他	4.0	4.3	3.5	4.1	3.9	4.1	3.9

*夏休みの宿題に「自由研究」が出たと回答したケースのみ対象。

「自由研究」に取り組んだのは75.2%と4人に3人の割合にのぼります（p.8を参照）。テーマは「図工系」が最多ですが、低学年に多く、学年が上がるとともに減少します。高学年になると、「理科・実験系」や「社会系」が増えたり、女子では「家庭科系」の課題に取り組む割合が増えたりします。



試行錯誤の自由研究



母親の声

自由研究がよくわからないので、何をどうすればいいのか悩んだ。結局去年と同じ工作になった。（小3女子）

自由研究を実行するのに、まだ子どもだけでは無理なのでほとんど親がやってしまい、これでよいのか悩んだ。感情的に叱ってしまい、自己嫌悪に陥ってしまった。（小3女子）

家族旅行で行った沖縄について自由研究を行ったが、たくさん調べすぎて子どもではまとめきれず、結局親が手伝うハメに。（小4女子）

工作を材料集めから自由にやらせました。でも、やりたいことがたくさんありすぎたせいか、テーマが絞れず、結局最後までできずじまいでした。（小2男子）

テーマをどう決めればよいか悩むという声がたくさん聞かれました。また、子ども一人ではできないので、どれくらい親が手伝えよいかということに悩む方も多いようです。



やり遂げることが大切

自由研究に取り組むことは、成長のよいきっかけになります。ものごとをじっくり考える機会が得られた、達成感を得て自信がついた、といった変化を感じる母親もたくさんいました。



母親の声

ドライアイスの性質を調べる実験をした。だいぶ苦戦していたが、自分の意見をどうまとめればいいのか考えるよい機会になった。（小4男子）

工作で貯金箱を作成。本人がイメージしたものに近づかず、何度も相談してきたのでアイデアをいくつか提案した。いろいろとチャレンジし、子どもなりにイメージを膨らませていた。（小1女子）

ペットボトルで車をつくりました。その車の評判がよく、先生や友だちに認めてもらったことで、自信がついたように思います。（小2男子）

「塩」の研究で、海水を自然乾燥する方法で塩をつくり、市販の塩と比較した。親が書き方を指南したが、かなり苦労して仕上がったときには、達成感をもてたようだ。（小4女子）

3. 夏休みの宿題



7割が「宿題をしなさい」と声かけ

図3-2 夏休みの宿題への保護者の関与

	(%)	低学年	中学年	高学年
「宿題をしなさい」と声をかけた	70.0	73.2	71.8	65.1
ドリルのまるつけをした	52.7	73.9	55.6	28.7
図書館や博物館などに連れて行った	30.4	31.6	33.7	25.8
いっしょに問題を解いてあげた	30.2	35.9	30.8	23.9
インターネットなどで調べものをしてあげた	29.8	15.3	35.0	39.0
宿題の計画をたててあげた	25.9	33.9	26.8	16.9
市販の実験キットや工作キットを購入した	12.1	12.4	14.0	10.0
宿題代行業者に宿題を頼んだ	0.0	0.1	0.0	0.1

*複数回答。

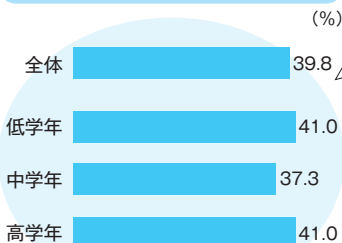
7割の保護者が、「宿題をしなさい」と声をかけています。「ドリルのまるつけをした」は約半数ですが、低学年だと7割をこえる一方で、高学年では3割に満たない結果です。「図書館や博物館などに連れて行った」「インターネットなどで調べものをしてあげた」など、調べ学習に協力する保護者も3割ずつくらいいます。



自主的に宿題ができる子は4割

図3-3 自主的に宿題をする

口出ししなくても自分で宿題をやっていた



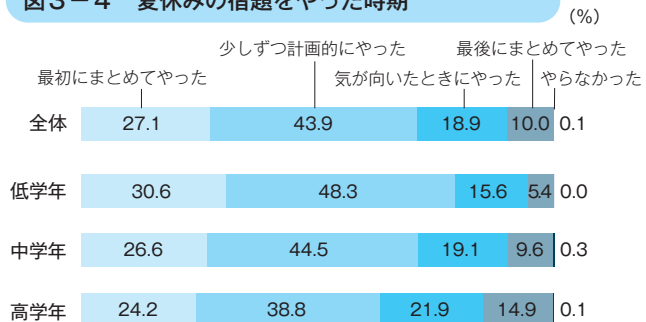
*子どもの夏休みの宿題の取り組み状況をたずねた設問（複数回答）で、「口出ししなくても自分で宿題をやっていた」を肯定した%。



「口出ししなくても自分で宿題をやっていた」という回答は4割前後。自分から進んで宿題をやる、ということは簡単なことではないことがわかります。

「最後にまとめてやった」は1割で少数派です。「少しずつ計画的にやった」が4割でもっとも多く、保護者に促されながらも、コツコツ宿題をやる子が多いようです。

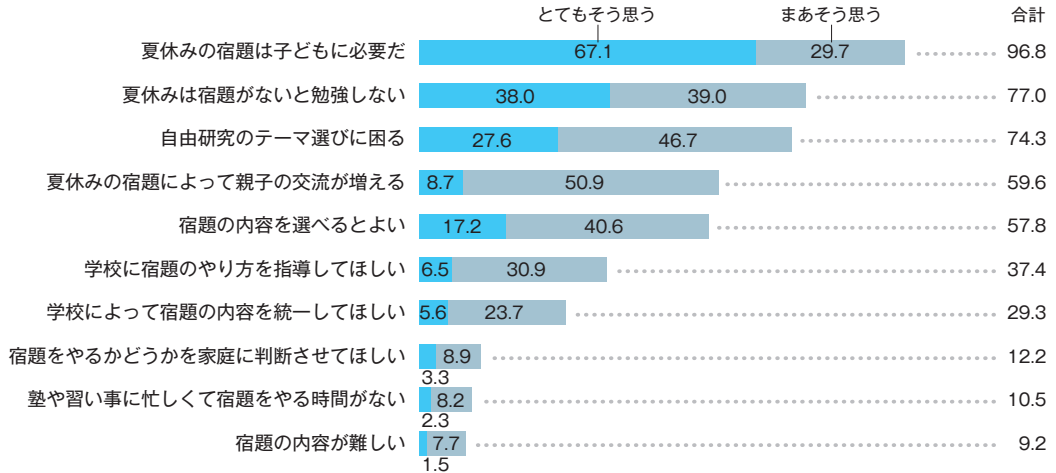
図3-4 夏休みの宿題をやった時期





宿題に対する保護者の悩みは深い

図3-5 夏休みの宿題に関する意見



ほとんどの保護者が夏休みの宿題の必要性を感じているのは、宿題がないと勉強しない現状の裏返しかもしれません。また、宿題や勉強を毎日やらせるのもたいへんですが、「自由研究のテーマ選び」も保護者の頭を悩ますことのように、「宿題の内容を選べるとよい」という要望は6割弱が肯定しています。



保護者の悩みは……？



母親の声

毎日こつこつと取り組む宿題があれば生活のリズムづくりもスムーズかと思うが、研究・絵・作文など大きなテーマの宿題しかなく、これでいいのかと思いつつながら夏休みを終えました。(小6男子)

宿題を自主的にやってほしいが、現実には、親が「今日はここをやりなさい」と指定してあげないとやらない。(小5男子)

宿題を子どもにまかせていたら、夏休みの半ばでほとんどしていないことがわかってビックリ。そこからいっしょに計画を立てたが、計画通り宿題に取り組みず、夏休み後半は怒ってばかりでした。(小5女子)

宿題でわからない箇所が出てきても、教え方に困った…理解してくれないとなおさらどうしてよいのかわからなかった。(小1男子)



先生の悩みは……？



先生の声

全員に同じ課題を課すと、個々の実態に対応できない。個に合わせて多様化すると、教師の負担が増してしまう。(男性 30代)

つまずきのある子には、個別に対応してあげたいが、一人ひとりに合った分量が異なるので、一斉に出すのも難しい。(女性 20代)

長期休業中の家庭での学習に、学校がどこまで関与するか悩みます。基本は家庭だと思うのですが。(男性 30代)

学校から出す量が多すぎる。几帳面な子にはプレッシャーを、勉強が得意ではない子には劣等感を感じさせている気がする。(女性 30代)

家庭の保護者の協力度、関心度に違いがあり、結果的に取り組んでくる子が多いが、一切やってこない子もいる。(男性 50代)

先生も一人ひとりの子どもや家庭の事情を考慮して、悩みながら宿題を出しているようです。

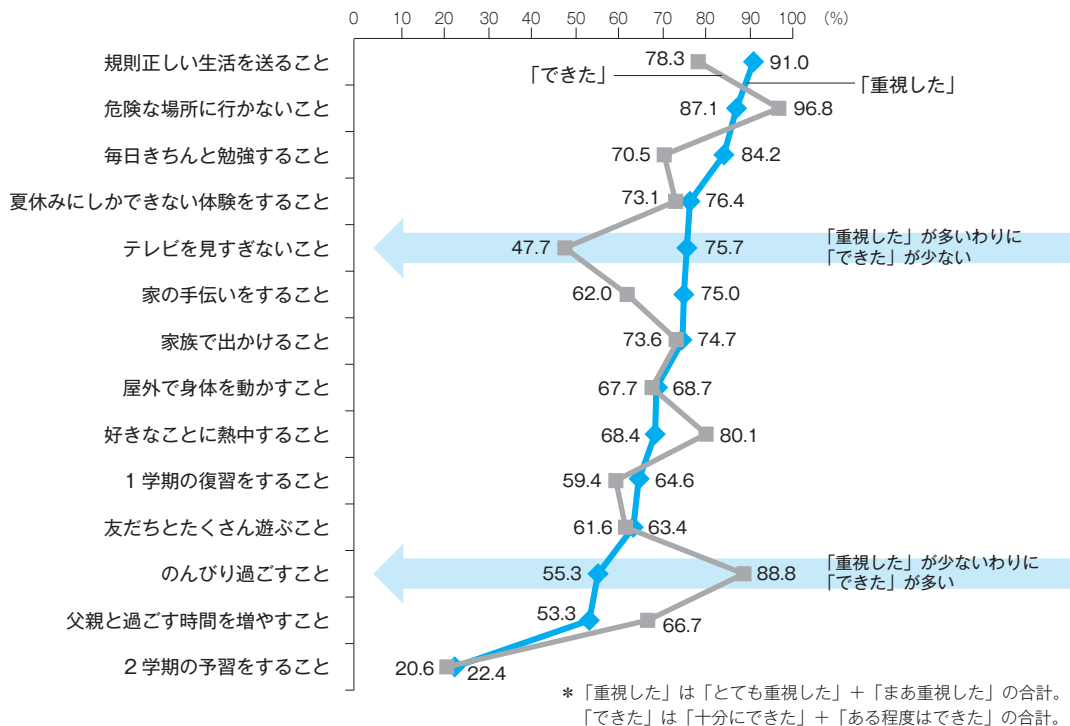
*先生を対象とした調査は、p.15を参照。

4. 保護者の意識



もっとも重視したのは「規則正しい生活」

図4-1 夏休みの過ごし方（重視したこと／できたこと）

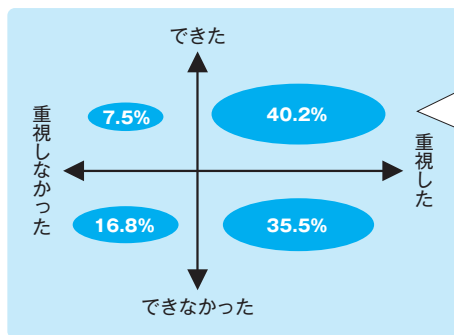


夏休みの過ごし方で【重視した】という回答がもっとも多かったのは、「規則正しい生活を送ること」。これに、「危険な場所に行かないこと」「毎日きちんと勉強すること」が続きます。【重視した】ことと【できた】ことの差に注目すると、「テレビを見すぎないこと」は【できた】の比率が大きく下回っています。



つつい見すぎてしまうテレビ

図4-2 テレビを見すぎないこと



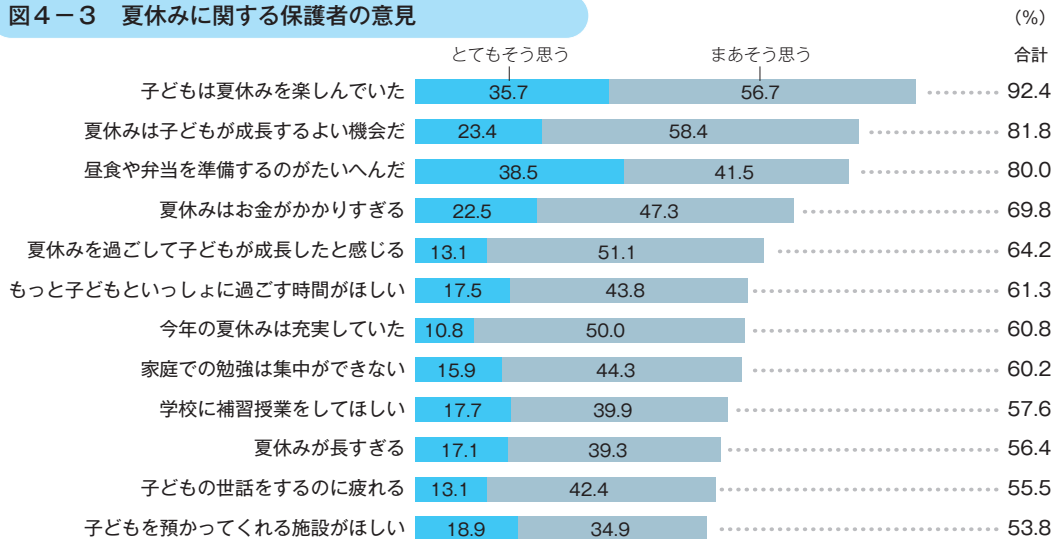
【重視した・できなかった】は35.5%で、保護者が気をつけていても見すぎてしまう子がたくさんいます。【重視しなかった・できた】という子はわずか7.5%しかおらず、視聴時間を自分でコントロールするのは難しいことがわかります。





8割が「夏休みは成長の機会」と認識！

図4-3 夏休みに関する保護者の意見

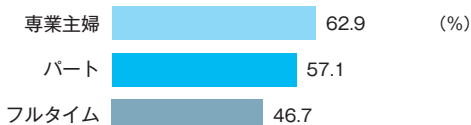


9割が「子どもは夏休みを楽しんでいた」を肯定し、「夏休みは子どもが成長するよい機会だ」と感じている保護者も8割をこえます。その一方で、「昼食や弁当の準備をするのがたいへんだ」「夏休みはお金がかかりすぎる」といった回答も多く、夏休みは保護者にとって負担も大きいのが実態です。



専業主婦のお母さんは「世話に疲れる」 働くお母さんは「もっと子どもと過ごしたい」

図4-4 子どもの世話をするのに疲れる



*比率は「とてもそう思う」+「まあそう思う」の合計。

*「夏休みの間の仕事の状況」について聞いたところ、「働いていなかった」を選択した場合を「専業主婦」と表記している。



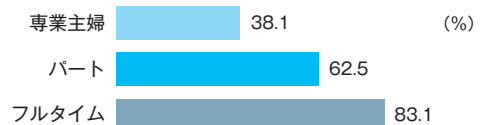
専業主婦の母親

困ったことは…毎日、三食のご飯です…。毎日何作ろうか、と悩みました。(小5女子)

遊ぶ友だちが近くにいないので、私に遊ぶように言ってくる。十分遊んであげられないし、自分の自由時間がなくなる。(小1男子)

毎日毎日、きょうだいげんかななどで…本当にたいへんでした。(小6男子)

図4-5 もっと子どもといっしょに過ごす時間がほしい



*比率は「とてもそう思う」+「まあそう思う」の合計。

*「夏休みの間の仕事の状況」について聞いたところ、「働いていなかった」を選択した場合を「専業主婦」と表記している。



働く母親

フルタイムで仕事しているため、あまりどこにも行けず申し訳なかった。(小1女子)

共働きなので、子どもが一人でいることが多く、昼食の用意もたいへんだったが、何より一人にしかわいそうだと思った。(小4女子)

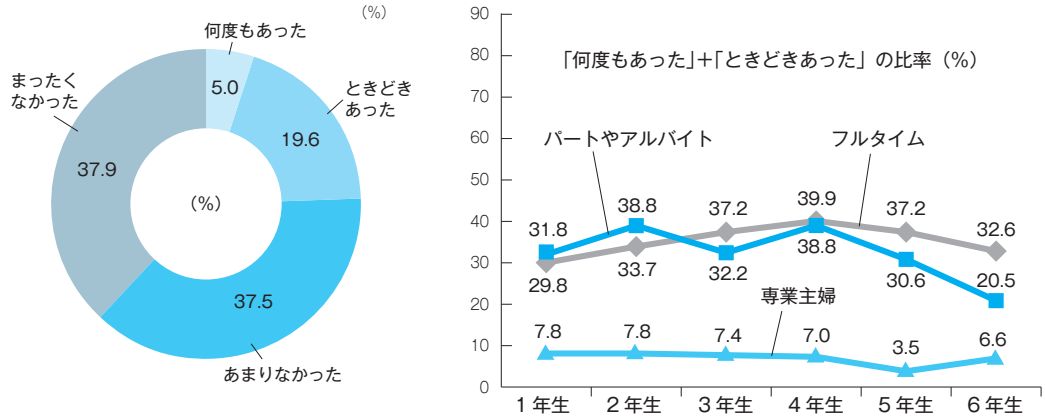
宿題も生活も、子どもといっしょにもっと楽しみながら過ごしたかった。(小4男子)



4人に1人が「子どもの世事に困ることがある」

図4-6 子どもの世事に困ること

Q: 夏休みの間、大人が家にいなくてお子様の世事に困るようなことがありましたか。



* 「夏休みの間の仕事の状況」について聞いたところ、「働いていなかった」を選択した場合を「専業主婦」と表記している。

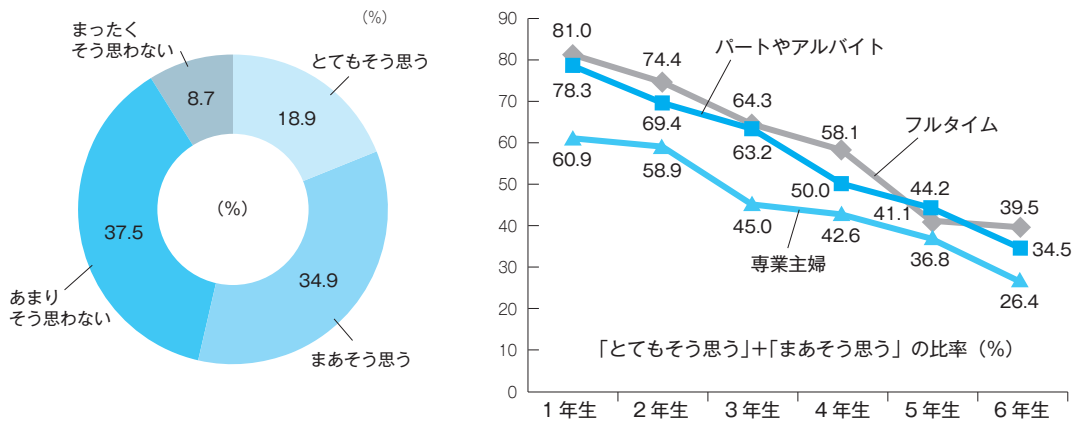
全体では4人に1人が「大人が家にいなくて子どもの世事に困ることがあった」と回答。とくに働いている母親の肯定率が高く、フルタイムでは子どもの学年を問わず3~4割が世事に困る経験をしています。



半数以上が「子どもを預かってくれる施設がほしい」

図4-7 子どもを預かってくれる施設がほしい

Q: 子どもの夏休みについて、「子どもを預かってくれる施設がほしい」と思いますか。



* 「夏休みの間の仕事の状況」について聞いたところ、「働いていなかった」を選択した場合を「専業主婦」と表記している。

半数以上が、夏休みの間、「子どもを預かってくれる施設がほしい」と回答。低学年の子どもをもつ母親ほど肯定率が高く、専業主婦の母親でも低学年では6割が「そう思う」と回答しています。



夏休みにむけて指導していること

Q：夏休み中の生活や学習について、どのようなことに注意するよう指導をしていますか。



先生の声

規則正しい生活を送ってほしい

生活リズムを崩さないように。夏休み明けは、心身に高い負荷がかかる。リズムを崩したまま2学期に入ると、苦労するので。(30代男性)

学校があるときとなるべく同じような生活時間で過ごすこと。家のお手伝いや学校の宿題などを、計画的に進めるように。(20代女性)

夏休みにしかできない体験をしてほしい

家で仕事を一つ決めて、続けること。読書や自由研究など長期の休みにしかできないことをする。(50代女性)

課題を中心に、夏休みにしかできないようなことに積極的に取り組むように指導している。(40代男性)

安全に気をつけてほしい

不審者に気をつけるように指導を行っている。不審な電話や訪問者があったときの対応について、詳しく指導している。(30代男性)

命を大切にする。自分の命は自分で守る。水の事故を防止するため、着衣泳などを体験させている。(40代女性)



先生が感じる子どもたちの成長

Q：夏休みを経て「子どもが成長した」と感じたことがありますか。

先生の目にも、夏休みのさまざまな体験によって子どもたちが成長していると映っています。



先生の声

落ち着いた雰囲気

夏休みが明けてほしいいつも「成長したな」と感じる。落ち着いた雰囲気が生まれ、そうやってだんだん成長してくるようなので、長期の休みは子どもには大切だと思う。(50代男性)

体験活動の効果

見た目はもちろんのこと、いろいろな体験活動を通して、ものごとを深く考えることができるようになったり、責任や思いやりをもった行動ができるようになったりする。(40代男性)

学習の積み重ね

学習を怠りがちだった子ども、夏休み中の学習を積み重ねることができると、休み後に毎日の自己学習ができるようになる。(40代男性)

たくさん遊ぶ

たくさん遊んだのか、黒くなって登校してくる児童を見ると、心身ともに一回り大きくなったような印象がある。(30代女性)

自然とのふれあい

夏休みならではの自然とふれあう体験などをした子どもが、素直に感謝する心や謙虚さを身につけたように感じられることがある。(30代男性)

親子のふれあい

家でしっかり親子の会話やふれあいがあった子は、2学期は落ち着いてくる。また、親に学習の不足を補ってもらえた子は、学習面ものびている。(40代女性)

やりきる体験

休みに子どもたちだけで田舎に出かけた経験や、自由研究をきちんとやりきった経験があると、自立心などの面で、大きく成長する。(40代男性)

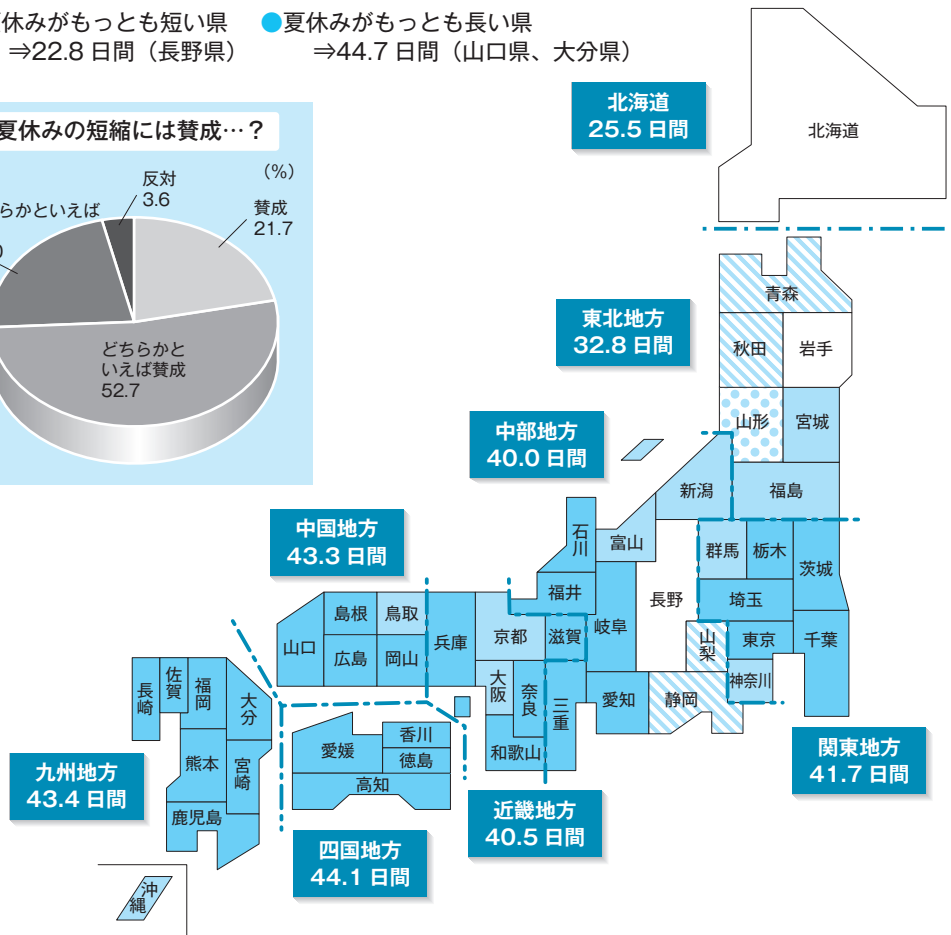
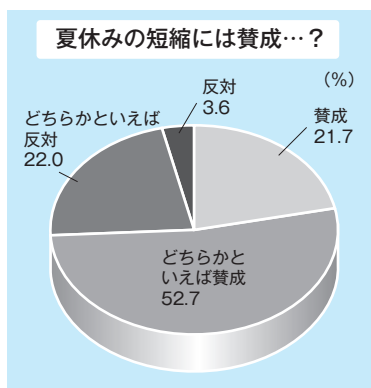
●先生調査 【対象】 担任をもつ小学校教員 103名 【調査時期】 2010年2月 【方法】 インターネット調査、自由記述形式

小学生の夏休みの過ごし方や保護者のかかわり方をご覧になって、どのように感じられたでしょうか。保護者にとつては負担が大きく、悩みもあるようですが、お金をかければよいというものでもありません。わが子に合った体験や、長期の休みだからこそできる学習・生活の習慣づくりを、ご家庭で考えてみてはいかがでしょうか。

夏休みはどれくらい？

●夏休みがもっとも短い県
⇒22.8日間（長野県）

●夏休みがもっとも長い県
⇒44.7日間（山口県、大分県）



□ 26日未満 □ 26～30日 □ 31～35日 □ 36～40日 □ 41日以上

*夏休みの日数は、母親の回答をもとに算出したものであり、実際とは多少のずれがある可能性があります。なお、夏休みの日数は、同じ都道府県内で同じとは限りません。

◆ Benesse® 教育研究開発センター のWEBサイトのご案内 ◆

本調査の調査票およびBenesse教育研究開発センターで実施している各種調査結果は以下のサイトでご覧いただけます。

<http://benesse.jp/berd/>

こちらのサイトは で検索できます。

「小学生の夏休み調査」

発行日：2010年7月1日 発行人：新井健一 編集人：原 茂
発行所：(株)ベネッセコーポレーション Benesse教育研究開発センター